

令和5年度 東京都立千早高等学校 学校経営計画

令和5年4月1日

校長 岡本 裕之

1 目指す学校

1 スクール・ミッション

「グローバルに激変する社会環境のなかで、自立することのできる人材の育成」を教育目標とし、英語教育とビジネス教育を柱に、生徒が他者への尊敬の精神を持ち、異文化理解や国際交流を通して主体的に自らの学びを深め、将来にわたり学び続ける能力を伸ばし、持続可能な社会に貢献できる生徒を育成する。

2 教育目標

グローバルに激変する社会環境のなかで、自立することのできる人材の育成

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 学問基礎の習得を図り、生涯にわたって主体的に学び続けるための基礎力を培う。
- ② 異文化への理解をはぐくみ、国際社会の一員として持続可能な社会に貢献する精神を養う。
- ③ 個性と創造力豊かな人間性をはぐくむとともに、異なる考え方を認め、他を尊敬する心を養う。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 基礎的・基本的指導事項の学習の充実のために、学校評価及び生徒による授業評価によって支持されている習熟度別少人数指導を継続し、一層の有効活用を図るとともに、個に応じたきめ細かな指導を行い、得意分野を伸ばし、主体的な学習習慣の確立を支援する。
- ② 英語を通じて異文化への理解に努め、我が国の良さを認識させるとともに、学校生活全般で他者への思いやりを大切にする生活習慣や社会の基本的ルールを身に付けさせ、公共心を養う。
- ③ 英語教育とビジネス教育に重点を置くとともに、授業や学校行事等において様々なコミュニティ活動に触れることで、社会や人間関係を学び、コミュニティの大切さを理解させ、自他の人格を尊重し、人権尊重、「RESPECT」の精神を培う。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① ビジネスコミュニケーション科の特色を十分に理解し、本校を第一志望とする生徒
- ② お互いを認め合い、理解し合い、相手の立場でコミュニケーションを図ることができる生徒
- ③ 英語とビジネスに強い興味・関心をもち、広い視野をもって主体的な学習を継続する生徒
- ④ 将来の進路について真剣に考え、その実現に向けて意欲的に挑戦し、大学進学を目指す生徒
- ⑤ 学校行事、生徒会活動、部活動、社会貢献活動等に積極的に参加する生徒
- ⑥ 友人や教職員と共に、学校の良き校風を継承し、新たな歴史をつくり上げようとする生徒

2 中期的目標と方策

本校は進学型専門高校として20年目を迎え、新しいタイプの学校として一定の評価を得ている。これまで実践してきた英語とビジネスを柱とした本校独自の教育内容や指導方法に更なる進展を図るとともに、その取組を教育課程に落とし込み、教育活動の質を高める。更に、進学型専門高校のフロンティア校として大学進学実績向上を図り、都立高校での明確な役割と立ち位置を確立する。

「学校の教育活動全体を通して教科横断的に育成すべき資質・能力」

- 学問基礎の習得を図り、生涯にわたって主体的に学び続けるための基礎力を培う。
- 異文化への理解を育み、国際社会の一員として社会に貢献する精神を養う。
- 個性と創造力豊かな人間性を育むとともに、異なる考え方を認め、他を尊敬する心を養う。

「学校の教育活動全体を通して教科横断的に育成すべき資質・能力」に基づくルーブリック

◎「基礎学力」「情報活用」「他者の尊敬」「コミュニケーション力」「異文化理解」「社会貢献」の全ての項目について引き上げる。

- (1) 東京都教育委員会の「TOKYO・スマート・スクール・プロジェクト」に基づき、授業を始めとしてさまざまな場面で一人1台端末を効果的に活用して、生徒の持ち力を最大限に引き出すための環境を構築し、いかなる時でも学びを止めない学習保障を図る。
- (2) 新学習指導要領や東京都教育施策大綱などを踏まえ、経営会議やOP（企画調整会議）などを通して、本校の課題を共有してその解決に向けて、分掌や所掌事務の見直しや教育課程の再編成を図る。
- (3) 観点別評価の確実な定着、「主体的・対話的で深い学び」や教科横断的授業、基礎学力の定着向上及び、学びに向かう力や自己肯定感の醸成を図る。
- (4) 教育活動を強固に推進していく上での安定的な入選倍率確保に向けて、訴求力のある募集広報活動の在り方を検討する。
- (5) 生徒の規範意識醸成のために、本校の生活指導の在り方を検討して改善を図る。生徒一人一人の個別最適化の推進やメンタル面でのケアのため、特別支援教育の充実を図る。
- (6) 入学から7年間を見据えたキャリア教育を推進、指針となる「千早高校進路ロードマップ」を策定、学校推薦型選抜（指定校・公募）や総合型選抜を中心とし、一般選抜志望の生徒も視野に入れた指導体制を進める。
- (7) 入学生の入学意識調査や卒業生の追跡調査を行い、生徒にとって有効な教育活動の在り方を検討する。
- (8) 東京都教育委員会指定の事業や本校独自の海外連携事業及び海外修学旅行など、海外と関わる連携事業全般について総合的に見直しを図る。新たに体験型スペース「CHIHAYA Communication Village C C V」を新設し、これまで以上に生きた英語を身に付けることができるよう運営する。
- (9) 学校設定科目「ERP（Extensive Reading and Presentation：多読と発表）」を検証し、これからの英語教育を強力に牽引する内容まで高めていく。
- (10) これまで培ってきたビジネスの「不易と流行」を外部との連携を含め、実学的要素をこれまで以上に積極的に取り込み、学びの体系化を図り、魅力あるビジネス教育の推進を図る。
- (11) 分掌ごとの職務負担の平準化。特に学級担任について、学期当初及び学期末における学校行事等の役割分担の一部を移譲することで負担軽減を図る。
- (12) 情報共有と協働意識の醸成。生徒情報を一元的に集約して共有化を図り、進路指導などに活用する。

3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①学校経営

- ・東京都教育委員会の「TOKYO・スマート・スクール・プロジェクト」による「統合型校務支援システム」及び「学習支援クラウドサービス」の確実な実施に向けた校内整備を計画的に進める。
- ・自ら未来を切り拓く力の育成として「Global Education Network 20」（GE-NET 20）事業で掲げた「主な取組」及び「目標値」を確実に達成するように全教職員で精力的に取り組む。
- ・高大連携事業を教員の専門性や生徒の資質・能力の向上に資する具体的な取組に落とし込み、次年度に繋がるようにしていく。
- ・学校経営が円滑に進むよう、学年内、学年間、学年分掌間などの連絡調整を確実に図り、効果的効率的な会議運営や進行管理になるようにする。
- ・新学習指導要領に基づくグランドデザインから、カリキュラム編成及び観点別評価の策定を行う。
- ・教員の授業力向上を図るため、教科主任を中心とした各教科における人材育成、授業公開や若手教員研修を活用した教員相互による授業参観などを実施する。
- ・「文化・スポーツ等特別推薦」での入学生の生活状況及び卒業後の進路状況を把握し、在り方を検討する。
- ・本校の特色を理解した意欲ある生徒を安定的に確保するため、募集広報活動を意図的計画的に進める。
- ・服務事故防止研修を進めて、日常的なクリーンデスクを始め、東京都の個人情報取扱基準を含む「千早ハンドブック（校内諸規定集）」を活用・遵守して学校の保有する生徒の個人情報を適切に管理する。

②学習指導

- ・「専門高校における民間OB等活用事業指定校」として、各教科指導、資格取得、キャリア教育の観点から、積極的な取組を行い、学びに向かう力や自己肯定感の醸成を図り、進路実現に繋げていく。
- ・教科、学年が連携して基礎学力の更なる定着等を目指し、進路指導に資する校内模試やGTEC等の成績について校内において分析・共有を図り、生徒への指導及び保護者会での活用を進める。
- ・コロナ後を見据え、学びの継続及び学びの保障の観点から、東京スマートスクール構想に基づき学校全体で一人1台端末の活用を積極的に進める。
- ・各教科でグループワークやプレゼンテーション等を取り入れることにより、思考力や判断力、表現力を高めるとともに、探究の視点を深めて生徒の主体的対話的で深い学びを引き出していく。
- ・全ての教科で教科横断的な取組を進める。特に、英語とビジネスはその中心的な役割を担うようにする。
- ・国語と英語の必履修科目では、3年間を通して習熟度別の少人数授業を展開することにより、各教科の基礎学力の育成・強化及び読解力の育成を図り、生徒の学力向上につなげていく。
- ・第1、2学年生徒が学習する必履修科目について、グランドデザインを踏まえ、明確な学習目標に基づいた指導と評価を組織的・効果的に行う。
- ・「使える英語」を楽しく学習させるため、学校設定科目「ERP（多読と発表）」の組織的な指導体制の充実を図るとともに、生徒の変容や学習の成果を検証して発展的な学習につなげる。
- ・実社会との関わりを通じてビジネスの学習を深化させ、企業やNPO、地域人材・資源との連携を図りながら幅広いソーシャルビジネス等を取り入れた「千早ビジネス教育」を展開、SDGsの取組を進める。

③生活指導

- ・グローバル人材としてタイムマネジメントや社会のルール・マナーを身に付けさせる。基本的な生活習慣を確立させるとともに、制服の着こなしや身だしなみを整え、規律ある学校生活の定着を図る。挨拶の励行や欠席、遅刻などを軽減させ、進路指導にも結び付けて指導する。
- ・「生活指導統一基準」に基づき、身に付けるべき規律・規範等を明示し生活指導の充実を図る。
- ・スクールカウンセラーによる第1学年生徒の全員面接や保護者・関係諸機関との連携等を図り、生徒の生命尊重を含め、心身共に健やかな成長を促進する。

④進路指導

- ・将来の進路選択及び進路実現に向けて学ぶ目的を段階的に育成するため、「千早進路ロードマップ」に基づき、学年別進路セミナーや進路模擬試験、卒業生講話等を系統的・計画的に実施する。
- ・生徒の多様な受験を支援し、進路決定を実現するため、小論文チームの充実を図り、全教員が横断的に小論文・面接等の進路指導に関わり、分野別や学部別等の個別指導を組織的に行う。

⑤特別活動・その他

- ・ビジネスコミュニケーション科としての個性化・特色化をより一層図るため、「英語」と「ビジネス」を中核として各教科等が様々な形で融合した教育活動を組織的に展開する。
- ・世界規模の視野で物事を考え、地域の視点で行動する能力を育成するため、地域や関係諸機関、SPA保護者の会、人材バンク等と連携し、「グローバル」な視点での教育活動を継続する。
- ・「知」「徳」「体」のバランスが取れ、異文化や日本の伝統文化への理解を図り、「おもてなし教育」を推進、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」（令和4年3月制定）（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画）を参考に、「栄養・運動・休養」を旨とし、体力向上及び朝食摂取率の改善・向上を図り、体力合計点を都平均値に近づける。

(2) 重点目標と方策

①学校経営

- ・経営会議やOP等で新しい組織編制や所掌事務等を検討する。
- ・会議の進行管理の徹底及びペーパーレス化をすすめ、60分以内に終了するようにする。
- ・本校の特色ある教育活動を広く都民に発信するため、学校ホームページにあらゆる教育活動をアップし本校の魅力を発信するとともに、オンライン見学会、説明会を実施する。
- ・教員一人一人の授業力向上を図るために、ICTリーダーを中心に、各教科でICT機器の実践的な活用

取り組むとともに、オンライン授業を実施するよう環境整備や研修、授業観察等を行う。

- ・教科代表者会議やGE-NET20プロジェクトを中心に、英語科及びビジネス科として特色ある教育活動を推進する。特に、海外連携事業の再構築や「CHIHAYA Communication Village (CCV)」の令和5年度確実な実施、高大連携事業の推進など、新たな事業展開について積極的に進める。
- ・経営企画室と職員室の密な連携の下で、適切な予算編成・管理・執行を行い、教育資源の充実を図る。
- ・「学校における働き方改革推進プラン」により、教員在校時間の適切な把握と意識改革を進める。

②学習指導

- ・新学習指導要領を踏まえ、新たな教育課程を編成するとともに、観点別評価の実施に向けて検討する。
- ・東京スマートスクール構想に基づき学校全体で一人1台端末の活用を積極的に進める。
- ・全ての教科で教科横断的な取組及びSDGsを踏まえた授業を進めるとともに、他教科の授業参観や連携授業の実施などを通して、学際的な授業力向上を進める。
- ・「GE-NET20」及び「海外学校間交流推進校」指定校として、生徒の英語力の向上を図るため、特色ある英語教理解教育を推進するとともに、JETプログラムの効果的な活用に取り組んでいく。
- ・生徒の英語の定期的な効果測定に基づく学習指導の改善・充実に取り組み、「使える英語」の定着を図る。特に、学校設定科目「ERP (Extensive Reading and Presentation: 多読と発表)」は、抜本的に改善していくために、指導内容や指導方法などを検証する。
- ・課題の提示を工夫・改善するとともに、学校図書館の効果的な活用に取り組み、自学自習時間の増加を図る。

③生活指導・進路指導

- ・関係諸機関と連携した実践的・体験的な教育を推進し、自らを守る能力や他者を尊重する心を育む。
- ・本校の生活指導の在り方を再確認して、全教員が同じ方向で指導できる体制を整える。制服の着こなしや身だしなみを整え、規律ある学校生活の定着を図る。
- ・CSL委員会を中心に、教科「人間と社会」を推進し、道德教育及びキャリア教育の充実を図る。
- ・「千早高校進路ロードマップ」に基づき補習・補講の体系化を推進し、組織的・体系的な指導を行い、大学への進学を念頭に、生徒一人一人の進路実現を図る。
- ・小論文チームの全体的な底上げが図れるよう、校内研修の開催や、研修受講の啓発等を積極的に行う。

④特別活動・その他

- ・アフターコロナにおける学校行事について検討を進める。
- ・校内研修や職員連絡会などを活用して、SCから教員のカウンセリングマインド醸成や生徒へのメンタルケア対応の充実を図る。
- ・各部活動において、自主的・自立的な活動の更なる推進を目指し、年間目標や指導方針を定め、体罰等の無い適切な指導による部活動指導を展開する。
- ・文化・スポーツ特別推薦の活用により、部活動の充実と学校の活性化を図る。

4. 数値目標

入学時	在校時	卒業時
<ul style="list-style-type: none"> ・推薦 3.00 倍以上 ・一般 1.50 倍以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業満足度 90%以上 ・1日当たりの自学自習時間 50分以上 ・学校評価における教育相談肯定的評価 70%以上 ・部活動加入率 80%以上 ・実用英語検定準1・2・準2級合格者 45%以上 ・日商簿記検定2級合格者 20%以上 ・クラス1日当たりの遅刻者数 1名以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 100%

